

演劇鑑賞会

H29年5月25日（木） 育友会広報部：記

千葉県より劇団「きゃろっと」を招いて、演劇鑑賞会が行われました。
低学年は「オズのまほうつかい」、高学年は「ごんぎつね」という演目でした。



いつもの体育館が、すてきな劇場に大変身。まるで別空間です！
フルートの優しい音色が、子どもたちを出迎えます。
子どもたちの表情は、ワクワクどきどき。



お茶目な演出に、子どもたちは大喜び。大声で間違い探し→
あつと言う間に、劇の世界へ引き込まれてしまいました。



可愛いドロシーに続いて、良い魔女グリンド登場。

落ち着いたすてきな美声
の主は、なんと団長さん！

役者さん達は、よく通る声
と全身で思いっきり役を
表現していました。



遠くに見えるエメラルドの都。影絵がきれいです。

エメラルドの都で、ドロシーたちは魔法使いから何をもらったのでしょうか。



最後は、みんなで歌いました。

次は高学年の「ごんぎつね」。セットと衣装はガラリと変わり、昔なつかしい雰囲気。



「それじゃ、わからないよ！！」
団長さんの厳しい声が響きます。子どもたちに素晴らしい演技を見てもらうため、入念なりハーサルが行われていました。

さあ、「ごんぎつね」の始まりです。

いたずら好きの、ごんぎつね。
それを追いかける兵十や村人。
にぎやかな場面が続きます。

てんびん担ぎの行商姿を、実際に
見られるのも演劇の良いところ。



影ひとつで、人の気持ちが
表現できてしまいます。

母親を亡くした兵十は、こ
っそり納戸に入ったごんを
見て…



心に突き刺さる兵十の叫び



色々な思いが交じり合っ
て、悲劇は起こります。

でも、悲しいお話だけで終
わらせなかったのが「劇団
きゃろっと」の素晴らしさ。

「兵十はどうなったの？」



この物語は、語り継がれることに意味があるのだと、キツネの親子の会話で教えてくれました。
里小から、将来、素晴らしい俳優・女優さんが出るかもしれませんね！